

地域の ET 技術者養成と発展に向けた家保の役割：岡山
県津山家保 光宗仁美、西淳子

当家保は受精卵移植(ET)技術を農家に広く提供する一方で、地域の民間 ET 技術者養成を長年実施。と体子宮を用いた模擬実習や現場での個別指導などを実施し、今では 20 名程度の移植師が管内で活躍。更に今年度家保広域化に併せ農家の庭先で検卵、凍結可能な体制を整備。事例 1：A 氏は以前家保へ採卵及び移植を依頼していたが、経営面でメリットを感じ、R4 年度 ET 免許取得。家保の現場指導により積極的に ET に取り組める環境を整備。事例 2：B 氏は自農場への ET の他、酪農家での借り腹 ET により和牛子牛を生産し、移植師として安定的に技術供与。R4 年度は家保採卵受精卵を 205 卵譲渡し、活用。事例 3：C 氏は長年活躍している移植師であり、家保が新たに整備した現地検卵供給体制により即時に新鮮受精卵を受取り、効率的に受精卵を移植。このような取組により、当家保は R4 年度 1314 卵の受精卵を移植師に払い出すなど、採卵技術提供により地域の ET を積極的に支援。